



2016年 3月17日 木曜日
(平成28年)

住宅火災で女性救助

戸田中央病院職員ら 消火器抱え消し止める

戸田市本町で2月4日午後4時ごろ、1人暮らしの高齢女性の住宅で火災が発生したが、通り掛かった戸田中央病院の看護師らが女性を助け出し、知らせを受けた病院職員らが消火器を抱えて現場に走り、火を消し止めた。消防車の到着を待っていたら火事の被害はもっと大きかったとみられ、戸田市の森谷精太郎消防長は「一致協力して適切な初期消火で火災被害を軽減した功労は顕著」と感謝状を贈った。(岸鉄夫)



表彰された戸田中央病院の職員たち。(左から)今井敏彦さん、上田文也さん、森谷精太郎消防長、中崎大介さん、岩瀬秀臣さん。戸田市消防本部

最初に火災に気付いたのは住宅の前を通り掛かった戸田中央産院の看護部長、星野恵子さん。「危ない」という叫び声を耳にして住宅の敷地内

「おばあちゃんは何かを取りに行きたいと言っていた。その時、服の裾が燃えていたのを私たちが消した。坂口さんはうちの病院で開いた会議に出るため通り掛かったんです」と星野さんは振り返る。

一方、星野さんとほぼ同じころ通り掛かった戸田中央病院の外科医、大久保雄彦さん(60)は病院事務局に「火事だ」と携帯電話で連絡。総務課の中崎大介さん(24)を先頭に、総務課長代理の岩瀬秀臣さん(39)や課員の上田文也さん(31)ら男性職員ら5人が消火器を抱えて走った。

「到着した時、石油ストーブの上で炎が天井まで届いていた」と陣頭指揮を取った今井敏彦施設課長(56)。今井さんらが消火器11本を使い切ったころ、火はほぼ消えた。約7分ほどの初期消火活動で、

後は到着した消防隊に引き継いだ。隣には幼稚園があった。今井さんは「早く消し止めてよかった。でなければ大きな火災になっていたはず」と話している。